株式会社アドバネクス

2012年3月期第2四半期
決算補足説明資料

2011年11月9日

本資料は2011年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

ADVANEX

主な内容

1. 2012年3月期第2四半期連結業績概要
2. 2012年3月期通期見通し

1-1. 第2四半期連結業績概要

（単位：百万円、%）

	2011年3月期 2Q	2012年3月期 2Q	対前期比増減		期初予想額 (5月13日公表)	対期初計画増減（額）
			額	率		
売上高	16,159	13,096	△3,062	△19.0%	12,500	596
営業利益	393	409	16	4.1%	150	259
利益率	2.4%	3.1%	–	–	1.2%	1.9%
経常利益	211	190	△20	△9.8%	50	140
利益率	1.3%	1.5%	–	–	0.4%	1.1%
四半期純利益	93	17	△75	△80.9%	△150	167
利益率	0.6%	0.1%	–	–	△1.2%	1.3%

1-2. 第2四半期連結業績のポイント

◆対前年同期比で減収・減益

売上高は、主にモーター子会社の非連結化と震災の影響により、対前年同期比19.0%減少。営業利益は、粗利率の改善や販管費の減少により対前年同期比4.1%増加したが、為替差損や特損の発生により、最終利益は17百万円となり、前年同期比80.9%減少。期初予想に対しては、売上・利益とも上回る結果。

◆プラスチック事業は収益改善

第2四半期以降は回復したものの、震災の影響により、精密ばね事業とプラスチック事業でOA機器向けや自動車向けの売上高が減少。プラスチック事業は国内外で収益性が改善。精密ばね事業は、国内は好調だったが、海外で利益が減少。

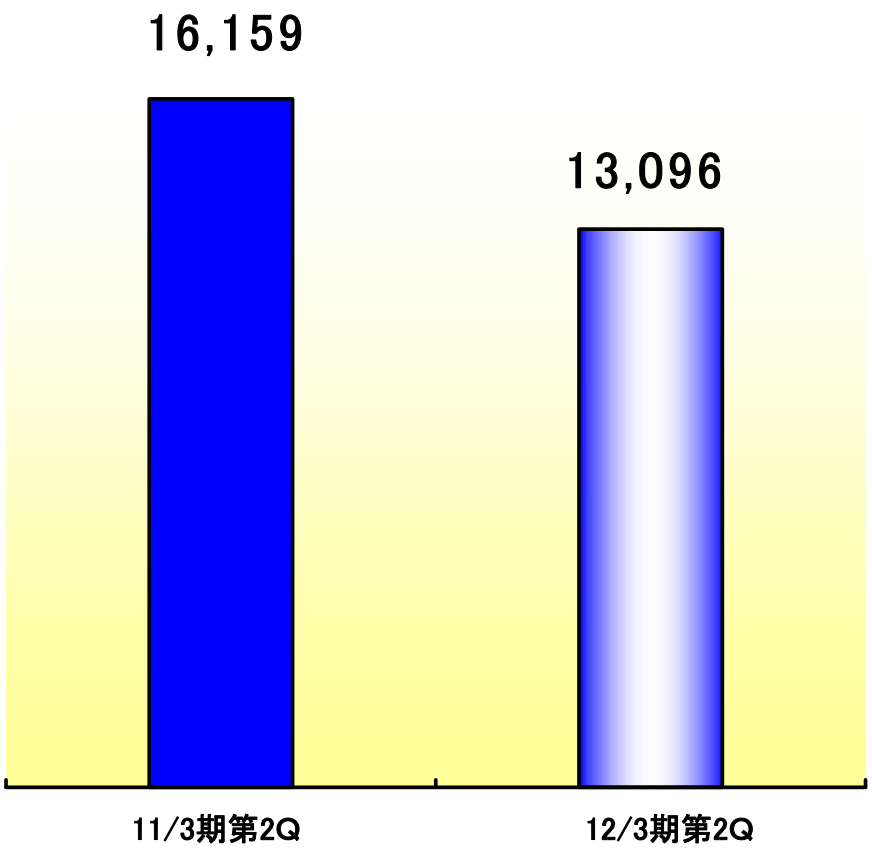
◆ヒンジ事業は携帯電話向け事業の縮小により、損失額減少

事業縮小の遅れのため、予想よりは損失が増加したものの、製品値上げや人件費等の固定費削減により、第2四半期以降は赤字幅が縮小。

1-3. 第2四半期業績推移(連結)

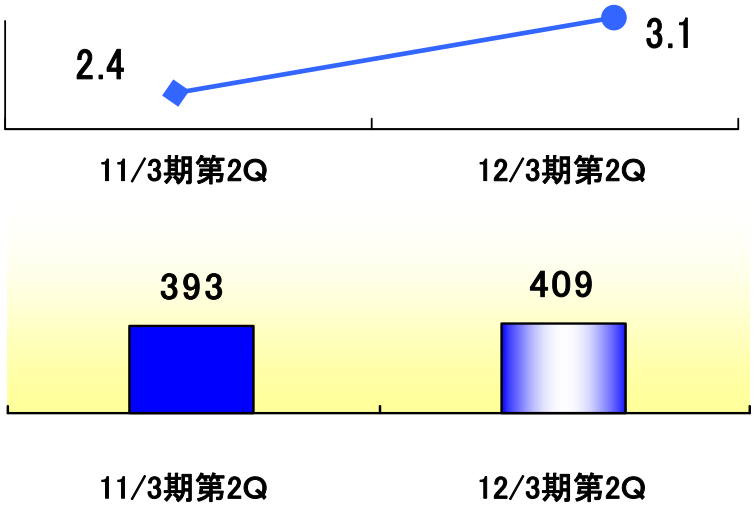
売上高

(百万円)



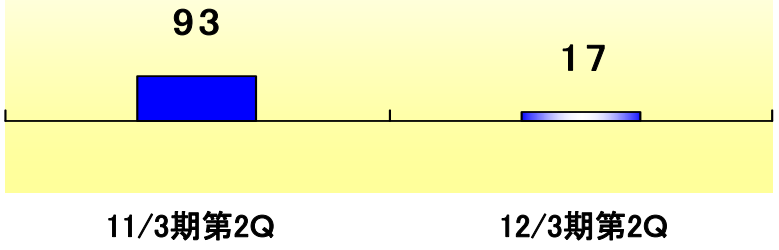
営業利益・利益率

(百万円)



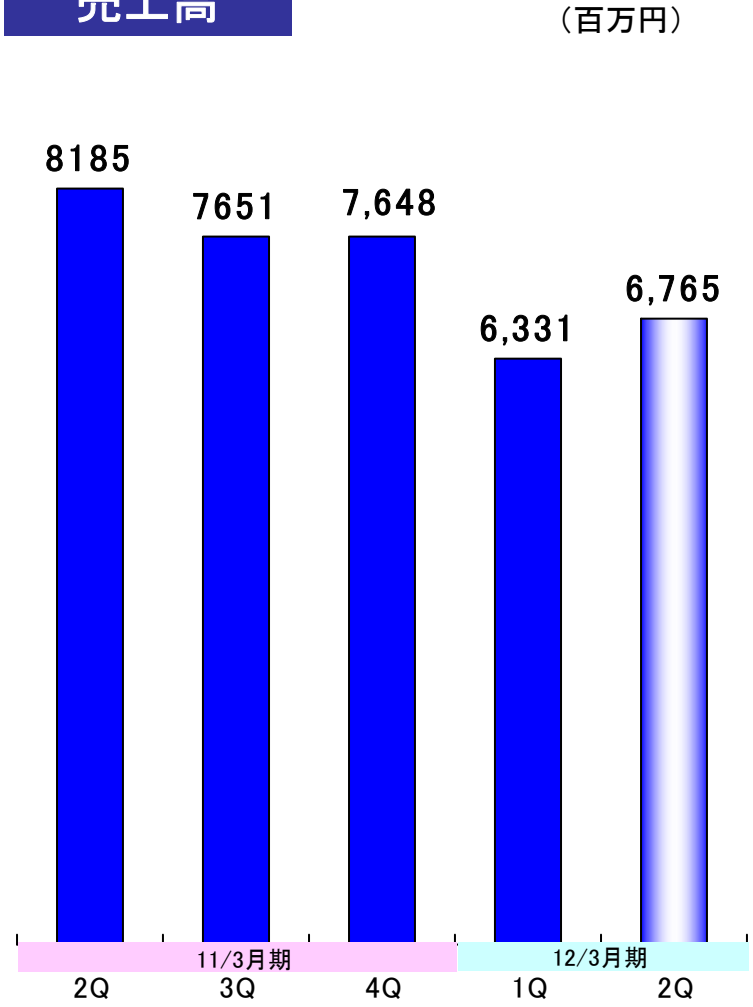
四半期純利益

(百万円)

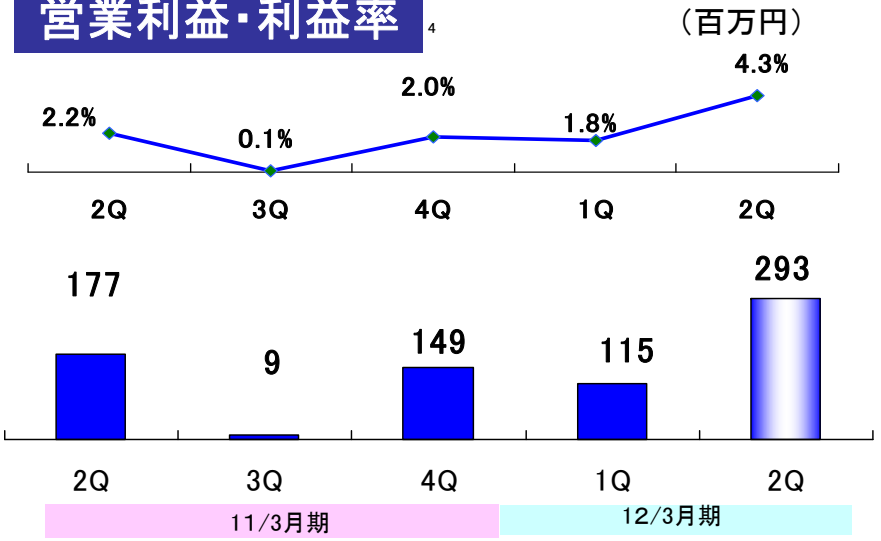


1-4. 四半期別業績推移(連結)

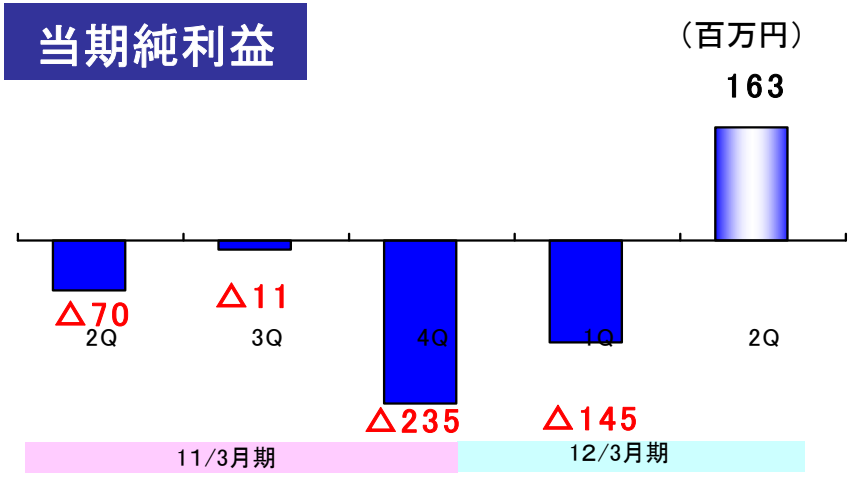
売上高



営業利益・利益率



当期純利益



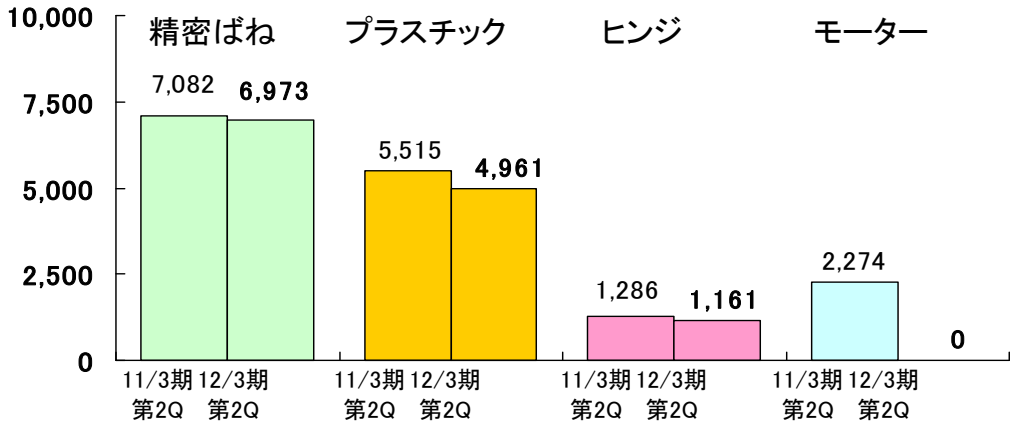
「なるほど！」を提供する

ADVANEX

1-5. 事業別売上高・営業利益

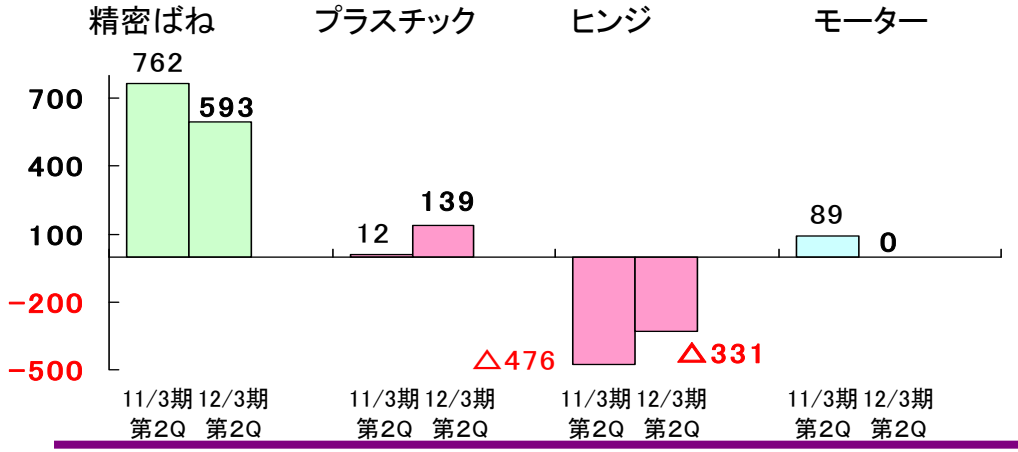
売上高

（単位：百万円）



セグメント利益

（単位：百万円）



＜前第2四半期からの変動要因＞

精密ばね

・震災の影響で、OA機器・自動車向けの売上が減少。
・国内は、収益性の高い商品の売上増加により、収益が改善するも、海外での売上減少・人件費増加が響き、全体としては収益減少。
＜売上：△1.5% 、セグメント利益：168百万円減少＞

プラスチック

・震災の影響で、自動車向けの売上が減少
・国内における収益性の高い製品の受注、中国での製品価格値上げや原価低減の結果、収益は改善。
＜売上：△10.1%、セグメント利益：127百万円増加＞

ヒンジ

・携帯電話向け事業の縮小に伴い、売上高が減少。
・製品値上げや人件費等の固定費削減により、2Q以降は損失額縮小。
＜売上：△9.7%、セグメント損失：145百万円減少＞

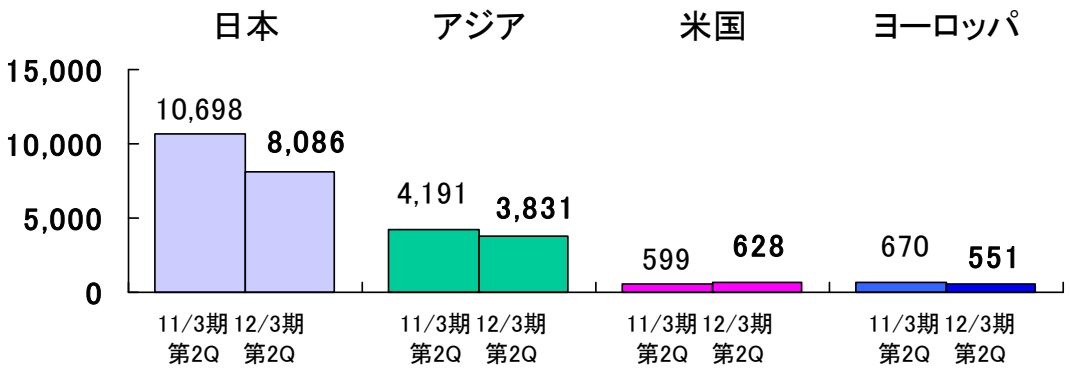
モーター （今期より除外）

2011年4月、モーター事業を担当する㈱フジマイクロが連結子会社から持分法適用会社に移行したため、モーターセグメントは今期より除外。

1-6. 所在地別売上高・営業利益

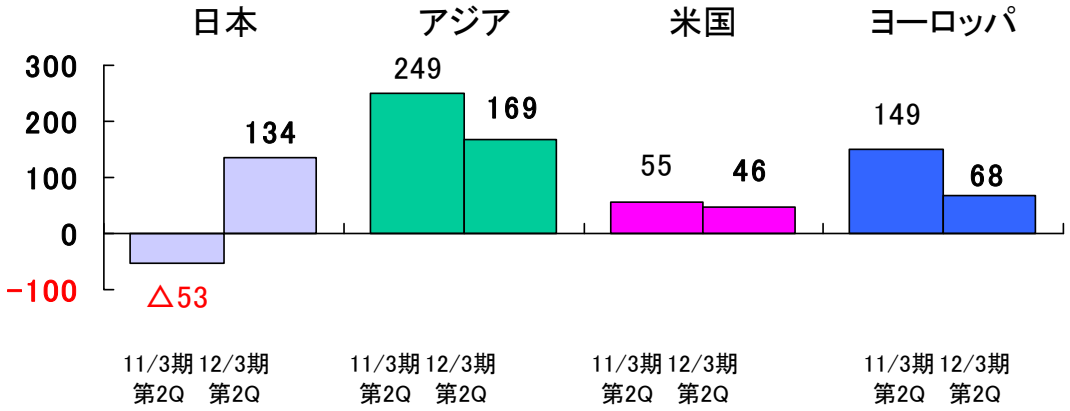
売上高

（単位：百万円）



セグメント利益

（単位：百万円）



＜前第2Qからの変動要因＞

日本

モーター子会社の非連結化による売上減少に加え、震災の影響等でプラスチック事業の売上が減少。ヒンジ事業も縮小。

プラスチック事業は収益性の高い商品構成比が増加し、収益改善に貢献。ヒンジ事業も2Q以降は、損失額が縮小。

＜売上：△24.4%、セグメント損益：+188百万円＞

海外

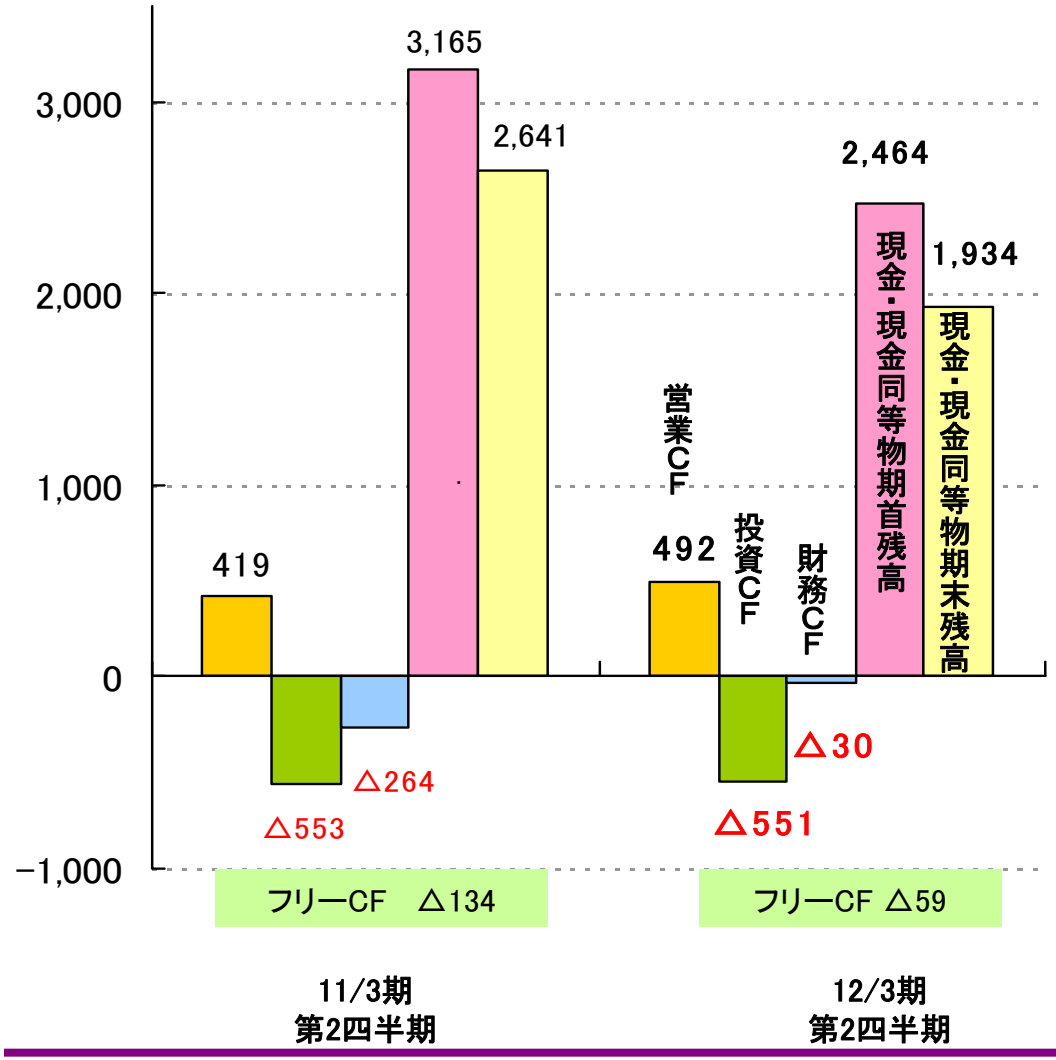
欧州はタングレスコイルスレッドの売上減少により、減収・減益。アジアはプラスチック事業が収益改善するも、震災の影響等により精密ばね事業がシンガポール・中国で減収・減益。

＜売上：△8.3%、セグメント利益： △ 170百万円＞

1-7. 連結市場別売上高

（百万円）	11年3月期		12年3月期		増減	
	上期	構成比	上期	構成比	額	増減率
OA機器	4,758	29.4%	3,857	29.5%	△900	△18.9%
自動車機器	3,242	20.1%	3,005	22.9%	△236	△7.3%
PC・周辺機器	728	4.5%	1,108	8.5%	381	52.3%
携帯情報端末	1,054	6.5%	813	6.2%	△241	△22.9%
AV・家電	1,178	7.3%	764	5.8%	△414	△35.2%
精密機器	792	4.9%	887	6.8%	95	11.9%
医療機器	528	3.3%	409	3.1%	△119	△22.5%
住設機器	1,954	12.1%	901	6.9%	△1,054	△53.9%
その他	1,925	11.9%	1,352	10.3%	△573	△29.8%
合計	16,159	100.0%	13,096	100.0%	△3,063	△ 19.0 %

1-8　連結キャッシュ・フロー



＜12/3期第2四半期の状況＞

営業活動によるCF

減価償却費による資金留保等により、資金が492百万円増加

投資活動によるCF

国内やアジアの工場における機械設備等の投資により、資金が551百万円減少

財務活動によるCF

リース債務の返済により、資金が30百万円減少

2-1　2012年3月期通期業績予想（連結）

（百万円）	2011年3月期	2012年3月期 通期予想	対前年比 増減（額）	期初予想 （5月13日公表）	対期初計画 増減（額）
売上高	31,459	25,000	△6,459	26,000	△1,000
営業利益	552	700	148	850	△150
営業利益率	1.8%	2.8%	1.0%	3.3%	△ 0.5%
経常利益	326	360	34	590	△230
当期純利益	△152	50	202	330	△280

2-2　通期業績予想について

◆売上高・利益ともに通期は減額

上期では売上・利益とも期初予想を上回ったが、下期は精密ばね事業とプラスチック事業において、売上高の減少に伴い利益が減少する見込み。ヒンジ事業における事業縮小の遅れに伴う損失増加のため、通期では下方修正。

◆精密ばね事業が3Q以降は減速

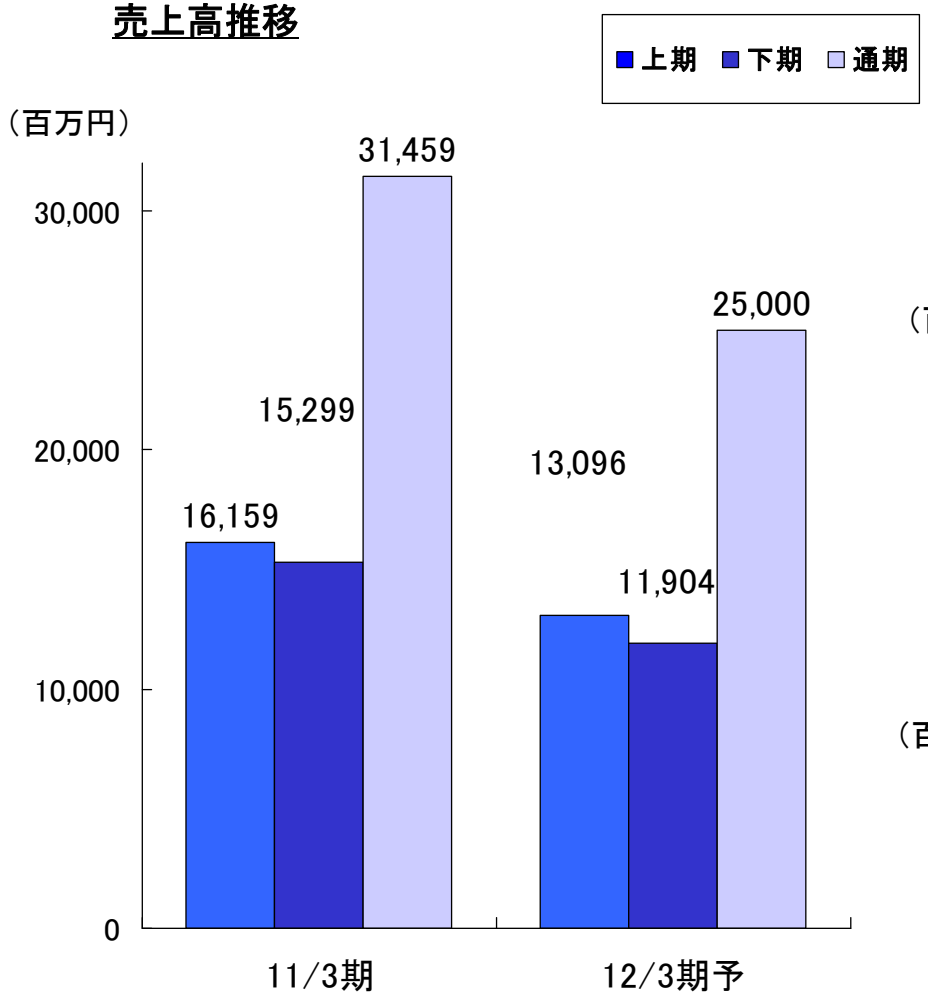
顧客企業の生産調整等に伴い、タブレット端末向けやOA機器向けの受注が、3Q以降減少する見込み。また、タイの洪水被害に関して、現地子会社の売上減少や、顧客企業の部品不足による生産調整の影響を国内外で想定。売上高5億円、営業利益1.5億円の影響額を織り込む。

◆株式交換により特別損失が発生

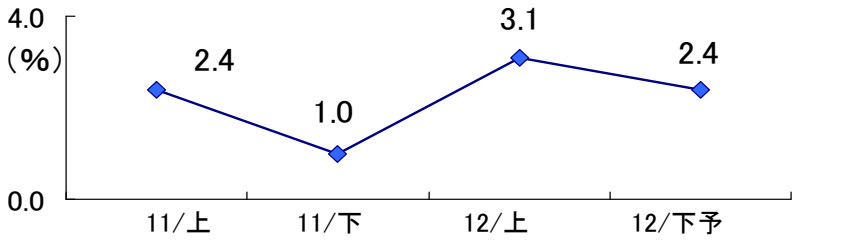
株式交換によるストロベリーコーポレーションの完全子会社化に伴い、3Qに112百万円の特別損失が発生。年金制度の移行に伴い、特別利益も発生する見込みであるため、影響は軽減。

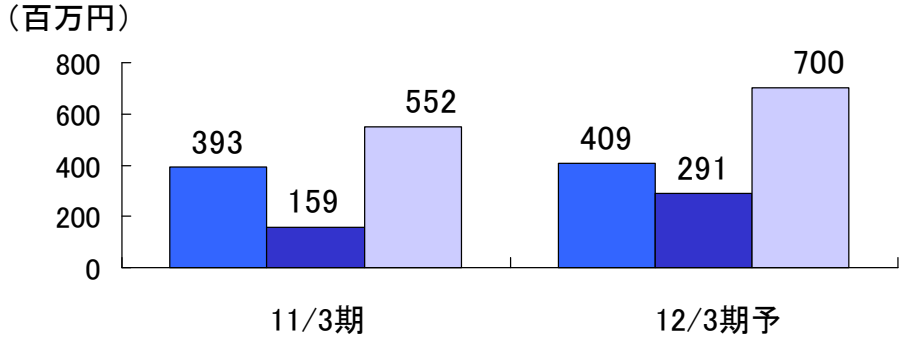
2-3　業績推移(連結)

売上高推移

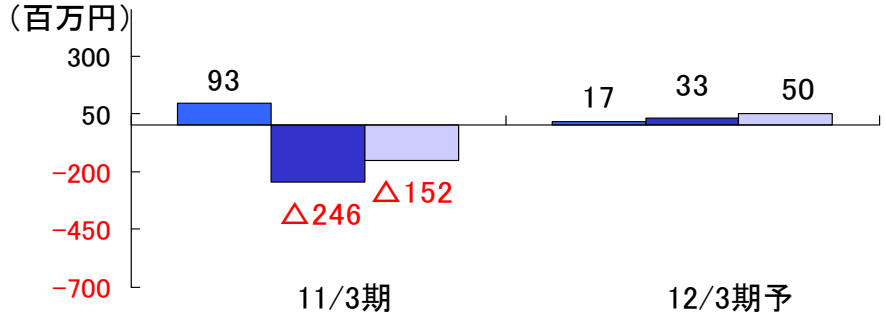


営業利益・営業利益率(%)推移



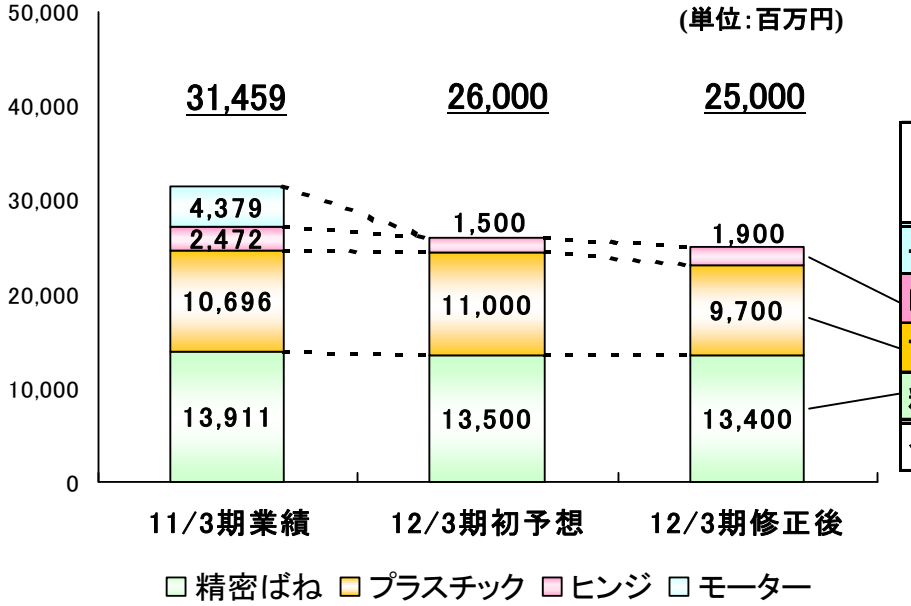


当期純利益推移



2-4　セグメント予想の修正

売上高



セグメント利益

(単位:百万円)

	11/3期 業績	12/3期 期初予想	12/3期 修正後	増減額
モーター	171	–	–	–
ヒンジ	△1,032	△300	△470	△170
プラスチック	93	100	190	90
精密ばね	1,309	1,050	980	△70
合計	552	850	700	△150

＜修正の要因＞

精密ばね事業は、上期は予想を上回ったものの、下期はPC関連やOA機器向けの受注減により、売上・利益とも減少。他にタイの洪水被害で、売上高5億円、営業利益1.5億円の影響額を見込む。プラスチック事業は、自動車向け等で売上は減少するものの、国内外で収益性が改善。ヒンジ事業は、事業縮小の遅れに伴い売上高が増加、利益面では損失が拡大。

（お問い合わせ先）

株式会社アドバネクス
広報IR部

TEL：03 － 3822 － 5865　　FAX：03 － 3822 － 5873
URL：http：//www.advanex.co.jp